

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教 師 ノ ー ト

週課	第一年 第四課 第一週
単元	イースター
テーマ	キリストの再臨への備え
タイトル	小さなことでも
テキスト	マタイ25:31-46
参照箇所	マタイ10:42、黙示録22:12、ヘブル9:27
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ25:40
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	<p>羊ってどんな鳴き声をしますか？(メー)そうですね。では、ヤギはなんて鳴くか聞いたことがありますか？(メー・笑)ある人は「ヤギはソプラノ、羊はアルト、牛はテナー」と言っていて、羊よりもヤギの方がちょっと高い声で鳴くそうです。姿も何となく似ていますよね～(画像なども見せながら)。鳴き声はなかなか違いが分からないですよ。でも羊とヤギは確かに違うんですね。</p> <p>では、イエス様を信じている人と信じていない人の違いって何でしょうか？イエス様を信じている人も信じていない人も、同じ人間です。同じように生まれてきて、ご飯を食べて、やがては死にます。イエス様を信じていても信じていなくても、結局は死んでしまうのなら同じなんではないでしょうか？</p> <p>イエス様は十字架にかかり、3日目に甦って、天に昇られました(先週の復習)。そのイエス様はやがて私たちのところに来られます。その時、イエス様を信じて生きてきた人とイエス様を信じないで生きてきた人は、かけられる言葉が違うんですよ～。</p>
□ポイント1 イエス様は再び来られます(31-33節)	<p>天に昇られたイエス様は、いつかは分かりませんが栄光の王として再び地上に来られます。その時、死んでいる人もみんな生き返って、全ての人々がイエス様の前に集められます。そして、羊飼いが羊とヤギを分けるようにして、イエス様を信じて生きてきた人々を右に、イエス様を信じないで生きてきた人々を左に分けられます。</p> <p>☞「羊と山羊のたとえ」として知られているところですが、厳密な意味では「たとえ」というより、むしろ詩的に最後の審判の預言的描写をしています。マタイ16:27の成就が描かれています。(新聖書注解)</p>
□ポイント2 王は右側にいる人々を祝福します(34-40節)	<p>その時、イエス様は、イエス様を信じて生きてきた人たちに「あなたたちは私(イエス様)が困っているときに助けたり親切に世話をしてくれたから、御国(永遠の命)を受け継ぎなさい」と言われます。しかし、その人たちは、「私たちはイエス様を助けたり親切に世話をした覚えなんてありません」と答えます。するとイエス様は「(直接イエス様にしたのではなくても)地上でお友だちや困っている人たちのため、最も小さい者たちの1人にしたことは私(イエス様)にしたことです」と言われました。</p> <p>☞愛の業は、救いや御国に入る条件ではありません。イエス様を信じてきたことの結果として伴う証拠です。「正しい」というのは、その人自身の行いの正しさ・正義というよりも、神との関係の正しさのことでしょう。新共同訳聖書の旧約では、「正しい人」を「神に従う人」と訳しています。神との関係が正しく、真つすぐなものであり、神に従う人は、結果として隣人に対して愛の業を行うようになるということでしょう。</p>

□ポイント3 王は左側にいる人々をのろわれた者どもと言いました（41－46節）

一方、イエス様は、左側にいる人々に、「あなたたちは私（イエス様）が困っているときに助けたり親切に世話をしてくれなかったから永遠の刑罰に入れ」と言われました。その人たちは「私たちはイエス様が困っているときに助けなかったり親切に世話をしなかった覚えはありません」と言いました。イエス様は困った人など最も小さい者たちの1人にしなかったことは私にもしなかったことと言われました。

☞ 罪とは、悪いことをした結果のことではなく、神との正しい関係にない状態、的外れの状態のことを言います。行為そのものよりも、神との正しい関係にない状態が罪の状態なので、善を「しなかったこと」も罪であると聖書は示しています（参照ヤコブ4:17）。

☞ 「羊＝良い動物」、「山羊＝悪い動物」という先入観を植えつけないように注意しましょう。

□結論 私たちが毎日の生活で行う親切（愛のわざ）は、どんなに小さくてもイエス様にしたこととして覚えられ、やがてイエス様が来られた時に大いに喜ばれます。

イエス様は、私たちが身近な人に対して、困っている時に助けたり、親切にすあをすることを、「わたしにしてくれたことだ」と言ってくださいます。嬉しいですね。私たちの小さな親切は死んでなくなってしまうのではなく、誰が見ていなくてもイエス様は見えて知って下さっており、やがてイエス様が喜んでくれるのです。

☞ 誰が御国に入るのか、そして永遠の刑罰を受けるのかを決めるのは、神の支配の中にあることです。短絡的に、イエス様を信じていなかった人は全員が永遠の刑罰を受けるということを強調するのではなく、イエス様を信じている人々は永遠の命を得ることができることを強調し励ましましょう。（イエス様のことを知らないで生きた人たちのことについては、ロマ書2章などから考察することが出来るでしょう）

☞ 参照：賛美「そらのとりは」『救いの聖歌』（いのちのことば社）

1節「空の鳥は小さくても お守りなさる神様」 2節：「私たちは小さくても お恵みなさるイエス様」
3節「悪いことは小さくても お嫌いなさる神様」 4節：「愛の業は小さくても 喜びなさる神様」

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

私たちがしなかった親切は、イエス様にしなかったこととなります。私たちのまわりに困った人がいたら、自分に何が出来るかを考えましょう！それがどんなに小さなことでもイエス様にしたこととして、イエス様が大いに喜んでくれます。

1. 先週、困ったなあと思っている人に会いませんでしたか？

仲間外れにされている人、何かをなくしてしまった人、迷子になっている人、病気で学校を休んでいる人、手伝いを必要としている人、友だちがいなくて寂しそうにしている人などなど…

そんな人たちのために自分は何が出来るか、考えてみましょう。

2. お祈りをして、小さな親切をする力をイエス様に頂きましょう。

教 師 ノ ー ト

週課	第一年 第四課 第二週
単元	イースター
テーマ	イエス様のよみがえり
タイトル	イエス様の言葉を思い出した女の人たち
テキスト	ルカ24:1-12
参照箇所	マタイ28:1-20
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ルカ24:5-6

AG 日曜学校教案参照箇所

□導入
イースター、おめでとうございます！！
イースターは、十字架にかかって死なれたイエス様がよみがえられたことを記念してお祝いする日です。イエス様がよみがえられた朝、イエス様のお墓でどのようなことが起こったのでしょうか。イエス様の身体が墓の中になくなくなったことを見た女の人たちといっしょに、イエス様がよみがえられた朝に起こったできごとをみていきましょう。

□ポイント1 墓の中にイエス様の身体がありませんでした。
女の人たちはイエス様のお墓にいきました。女の人たちの手には香料がありました。イエス様のお身体に塗るために準備した香料です。イエス様を大切にしたいと思っていたのです。イエス様は女の人たちにとって本当に大切なお方だったのです。しかし、女の人たちが墓につくとびっくりしました。お墓の穴を閉じていた大きな石がわきに転がしてあったのです。それだけではありません。お墓の中にはいってみると、そこにおいてあったイエス様のお身体がなかったのです。女の人たちはどんな気持ちになったのでしょうか。聖書には「途方にくれて」と書いてあります。何が起きたのか女の人たちは理解出来なかったのです。そして悲しい気持ちになりました。大切なイエス様のお身体がなくなったのですから。女の人たちは墓についたら、あれをして、これをしてと、いろいろとやることを考えていたと思います。もちろん、あの大きな石をどうやって動かそうか？イエス様のお身体に香料を塗ってさしあげて……。でも石は動いているし、イエス様のお身体はなくなっている。女の人たちが想像もできないことが起こっていたのです。何をしたらいいのか何も思い浮かばない女の人たちがそこにいました。

☞墓:通常、柔らかい石灰岩を切り開いた空洞に遺体は埋葬された。このような墓には、約1m四方の入り口があった。墓の外側には溝が掘られ、石臼のような大きな丸い石が、入り口を塞ぐために転がされていた。(The Study Bible 新約聖書 日本聖書協会より)

☞香料と香油:これらは恐らく没薬や沈香のこと(ヨハネ19:39)。中東特有の文化では、薬用や遺体の防腐処理に没薬や沈香はパレスチナで育成しないので、高価なものだった。(The Study Bible 新約聖書 日本聖書協会より)

□ポイント2 イエス様はよみがえりました。
何が起きたのかわからず、悲しい気持ちになっている女の人たち。そこに天使が近づいてきました。「まばゆいばかりの衣を着た」天使です。女の人たちはどんなに驚いたことでしょうか。驚いただけではありません。恐ろしくなりました。
恐れている女の人たちに天使はメッセージを伝えました。一緒に天使の伝えた言葉を読んでみましょう。5

節と6節です。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです」。この言葉を聞いた女の人たちはどんなふう思ったでしょう。嬉しいニュースだけど、「えっ」と不思議に思ったかもしれませんね。そして、死んだイエス様がよみがえったなんて、すぐには信じられないことだったと思います。イエス様のお身体がなくなって「途方にくれていた」女の人たちが、今は天使の言葉を聞いて、信じられない思い、不思議な思いになりました。

天使は続けて言いました。「イエス様がお話しになったことを思い出さない！」と。「思い出さない！」。天使は信じられない思いでいる女の人たちに「思い出すように！」と命じたのです。何を、でしょうか。「イエス様が前にお話しになったこと」をです。女の人たちにイエス様との思い出が浮かんで来たかもしれませんね。イエス様のお顔、イエス様のお姿、そしてイエス様がお話くださったことを思い出したのです。そして、女の人たちは天使がつたえてくれた復活のニュースを本当だと信じることができました。目の前にいる天使、墓に着いたときに見た大きな石、女の人たちは不思議な出来事を見ていました。それらはイエス様のよみがえったことのしるしでした。でも、最後にイエス様がよみがえられたというニュースを女の人たちが信じさせたのは、イエス様のお言葉によってでした。イエス様のお言葉は、イエス様がよみがえられた何よりも確かなしるしです。

□ポイント3 女の人たちはイエス様のよみがえりを伝えました。

女の人たちは弟子たちのいるところに戻って、自分たちが墓で見た事、聞いたことを話しました。墓で途方にくれていた女の人たち、天使を見て恐れていた女の人たち、イエス様の身体がなくなって悲しんでいた女の人たちが、今はイエス様がよみがえられたニュースを他の弟子たちにお話しているのです。大きな変化だと思いませんか。きっと女の人たちは喜んでお話ししたと思います。だって大切なイエス様がよみがえられたというニュースなのですから。聖書には、十一弟子とその他の「全部に」、そして「一部始終を」報告したと書いてあります。女の人たちはしっかりと、そして大切にイエス様がよみがえられたというとびっきりのニュースを伝えました。

☞「途方にくれていた女の人たち」、「恐れていた女の人たち」、「悲しんでいた女の人たち」と「弟子たちに伝えている女の人たち」を比較しながら、それぞれの場面に立ち戻りお話しすると、子供たちがもう一度今日の聖書箇所全体を興味深く思い返しつつ理解する助けとなるでしょう。※それぞれの姿をジェスチャーでやって見る、させてみるのも子供たちが興味深く思い巡らすことの役に立つことでしょう。

□結論

イエス様はよみがえられたお方であり、墓の中にはおられないお方です。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

神様は多くの人たちにイエス様がよみがえられた事を信じるように願っておられます。女の人たちにも信じることを願われ、天使を遣わしメッセージを伝えてくださいました。今、私たちには聖書が与えられています。この聖書を通して神様のメッセージを受け取ることができます。そして、イエス様がお話しして下さったことも聖書を通して聞くことができます。女の人たちはイエス様のお墓で不思議な光景を見ました。天使にも会いました。しかし、女の人たちがイエス様のよみがえられたことを確信したのは、イエス様の語られた言葉によってでした。女の人たちがイエス様の言葉によって信じる思いを深めたように、私たちも神様のみことばによって、イエス様がよみがえられたことを深く信じる者となりましょう。

教師ノート

週課	第一年 第四課 第三週
単元	イースター
テーマ	うそ
タイトル	復活を知らせないためのウソ
テキスト	マタイ28:11-15
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 第一コリント 15:14
AG 日曜学校教案参照箇所	小下1-5、小上3-6
□導入	あなたは自分がこまるからといって、ウソをついたり、作り話をしてしまったりしたことはありませんか？ 例えば、宿題が終わってないのに、怒られるのがイヤで「終わった」と言ってしまう。ともだちと遊びたくない時、「今日は家族で出かける」と作り話をして断る。
□ポイント1 祭司長たちは、兵士たちにイエス様の番をさせるようにしました	27章62～66節を簡潔に説明しましょう イエスさまが墓に納められた次の日に、祭司長やパリサイ人たちがピラトのところに集まり、墓の番をするように命じてください、と依頼した場面です。イエスさまを十字架にかけた張本人である祭司長と律法学者たちは、弟子たちが死体を盗んで、「イエスさまは復活したのだ」とでっちあげを伝えることを真剣に怖れていたのです(小上3-6p310)。人々が復活を信じれば、イエスさまの影響力が以前よりも大きくなると考えたからです。ちなみにイエスさまの弟子たちは、イエスさまが復活すると話されたことさえ忘れ、死体を盗む勇気など全くなかったばかりか、復活のニュースを聞いても信じられないほど弱きだったのです。なのに、祭司長やパリサイ人は安息日の律法をやぶってピラトの所に行くほど焦っていました。
㊦メッセンジャーは、この時代のパレスチナはローマ帝国から直接派遣され駐在していた総督ピラトの支配下にあったことを理解しておきましょう。番兵はピラトの管轄下にあるローマ兵でした。祭司長や律法学者で構成される議会(サンヘドリン)はローマの支配下で内政を担当していました。	
㊦語句の説明:こどもたちにわかる表現の例	<u>パリサイ人</u> :規則(律法)を厳しく守る学者たち。聖書にはくわしいけど、規則だけにこだわって、他の人たちを見下げる態度だったので、それをイエスさまに批判され、対立していた。 <u>祭司長</u> :昔から受け継がれてきた地位で、いけにえをささげる儀式などを行なったり、人々の指導をしたりする立場の人たち。 <u>封印</u> :お墓の扉に印を押したひもや粘土をつけた。封印のある墓を開くと犯罪。
□ポイント2 兵士たちはイエス様が復活したことを知りました	28章1節～11節を説明しましょう。(㊦メッセージ参考アウトラインでは、特に番兵たちの動きを中心に説明しています。「空の墓」については前々回のテキストで既に詳しく取り扱っています。)
㊦「大きな地震が起こった」、「いなずまのように輝き」、「震え上がり死人のようになった」などは、こどもが興味を持ちやすい表現です。記事の臨場感が伝わるように、ダイナミックにお話ししましょう。	

👉ここでメッセンジャーが理解しておくべきこと

- ①「死人のようになった」は、しばらく体が硬直して動けなくなった状態。
- ②石を動かしたのは、イエスさまが出るためではない。（すでに墓の中にイエスさまはいなかった。どの時点でイエスさまが復活したのかはわからない）
- ③マルコ・ルカの記事と照らし合わせると、天使が石をころがし、番兵が逃げたあと、女たちが到着したのだと考えられる。
- ④兵士たちは、ウソをついたのではなく、「起こった事を全部」報告した。

☆兵士たちは、どんな気持ちだったか、こどもたちといっしょに考えましょう。

□ポイント3 兵士たちはお金でうそを言うようにさせられました

祭司長たちは、兵士たちが言っていることが本当かどうかも確かめず、多額のお金を渡しました。（任務中に居眠りをした番兵は死刑になる可能性があったのに、兵士たちがお金をもらってウソを言いふらしたということは、相当たくさんのお金をもらったことが推察されます）彼らはキリストの復活を人々に知られないようにするのに必死だったのです。さらに総督さえも説得すると約束するほど、必死でした。兵士たちはイエスさまの体が弟子たちに盗まれないように墓の番をしていたのに、結局は彼ら自身が復活の目撃者となっただけでなく、自ら「イエスさまの体が盗まれた」と言いふらす皮肉な結果となったのです。

□結論 イエス様がよみがえられたことを知っていながら、嘘だと言いふらす人たちがいました

祭司長たちは、イエスさまを裁判で有罪にし、十字架にかけて殺すという、悪い計画を実行して成功しました。ところが、イエスさまのチカラは、彼らの計画をはるかに勝るものでした。死を打ち破り、イエスさまはよみがえったのです！ 勝利のイエスさまをほめたたえましょう！！

□適用

マタイがこの福音書を書いているとき（イエスさまの復活から約40年から70年が過ぎた頃）にも、祭司長たちの、ウソの作り話を信じている人がたくさんいました。たしかに、イエスさまが復活したことは、科学で証明できないし、物的証拠もありません。

☆あなたは、「イエスさまは復活した」と言っている聖書のことばを信じますか？ それとも、「復活なんてあるわけない」という世間のことばを信じますか？

☆13節の祭司長たちの作り話の矛盾点について、こどもたちといっしょに考えてみましょう（オマケ）

兵士たちが眠っていたのなら、どうして盗みにきたのが弟子たちだとわかったのでしょうか？ もし、盗みに来たのが弟子たちだと気付いていたなら、兵士たちはその場で弟子たちを捕まえたはずではないでしょうか？

教 師 ノ ー ト

週課	第一年 第四課 第四週
単元	イースター
テーマ	大宣教命令に従う弟子となる
タイトル	大宣教命令
テキスト	マタイ28:1～20
参照箇所	マルコ16:15～20
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ28:19～20
AG 日曜学校教案参照箇所	中学1巻(3)11課
□導入	<p>マタイの福音書の最後は、非常に重要なイエスさまの命令で締めくくられています。今日はこの「大宣教命令」について学びましょう。</p> <p>※今週からイースターの週までは、イエスさまの復活に関連する聖書の教えについて学びます。</p>
□ポイント1 イエスさまは、弟子たちにお会いになりました(28:1～10、16～17)	<p>イエスさまが、十字架にかかられてから3日目の朝、マグダラのマリヤたちは、イエスさまのお墓を見に行きました。すると主のみ使いが現れて言いました。「恐れてはいけません。イエスさまは、もうここにはおられません。よみがえられたからです。」イエスさまは、復活なされたのです！主のみ使いは、続けて女の人たちに言いました。「急いで行って、弟子たちに、イエスさまが復活されたことを知らせなさい。そして、ガリラヤでお会いできるということを、伝えなさい。」女の人たちは、びっくりしましたが、大喜びで、急いで弟子たちに知らせに走って行きました。</p> <p>その道の途中、今度は、イエスさまご自身が、彼女たちに現れてくださいました。彼女たちは近寄って、イエスさまの足に抱きついて、礼拝しました。</p> <p>女の人たちから、それを聞いた11人の弟子たちは、エルサレムからガリラヤに移動しました。そして、イエスさまの指示された山に登って、イエスさまを待ちました。すると、イエスさまが、弟子たちに現れてくださいました。弟子たちは、イエスさまを礼拝しました。</p>
□ポイント2 イエスさまは、「弟子としなさい」という大切な命令を与えてくださいました(18～20a)	<p>「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」</p> <p>これを、みなさんにわかりやすい言葉で説明するために、次のように言いかえることができます。</p> <p>「わたし(イエスさま)こそ、本当の神ですから、すべての者はわたしに従うべきです。ですから、<u>地上のすべての者が、みことばに従って生きる弟子になるようにしなさい。</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 世界中のだれもが、わたしの福音をきくように、行って伝えなさい。2. そして、福音を信じるように、導きなさい。3. また、わたしがあなたがたに教えたすべてのことを、しっかりと守って生きるように教えなさい。」 <p>わたしは生きていて、あなたがたがこの命令を成し遂げることができるように、いつもともにいて助け</p>

ます」

☞ 大宣教命令の中に出てくる動詞のうち「弟子としなさい」が主動詞(命令形)です。他の「行って」「バプテスマを授け」「教えなさい」は分詞です。ですから、原語(ギリシャ語)に従うと、上記のような意味になります。

□結論 イエスさまは、大宣教命令を与えてくださいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

A、みなさんも世界の人々を弟子とする働きをしましょう！

イエスさまは、復活し、今も生きておられます。過去のお方ではありません。今もリアルに生きておられるのです。ですからイエスさまの權威に、すべての者が従うべきです。イエスさまの愛を伝えましょう。難しいと思うかもしれませんが、この命令を成し遂げるために、復活のイエスさまが、私たちとともにいてくださるのです。イエスさまの「權威」と「助け」によって、宣教が拡大され、今日も世界中に教会があるのです。これが本当だからこそ、あなたにも福音が届いたのです。あなたも、この命令に従って、イエスさまの弟子となりましょう。そして、世界の人々を弟子とする働きをしましょう。イエスさまが、ともにいて助けてくださるから大丈夫です！

B、「弟子としなさい」の命令を守るために、まず自分が弟子になりましょう！

次の3つのことができるように、教会の先生に訓練をしてもらいましょう(弟子訓練)。

1. 「行って」 積極的に、たくさんの人と友だちになって、イエスさまのことを伝えるきっかけや関係をつくることです。イエスさまの弟子を増やすには、たくさんの人と出会い、イエスさまのことを伝えるチャンスをつくる必要があります。人を愛せるように、人間関係作りができるように、なりましょう。
2. 「バプテスマを授け」 聖書から福音をしっかりと説明して、イエスさまを信じるように導くことです。よく聖書を学び、暗唱聖句をしましょう。
3. 「教える」 信じただけでなく、みことばに従って生きる人になるように、よく教えることです。教えるというのは、口頭で教えるだけでなく、自分がお手本を見せ、しっかり訓練する必要があります。まず自分が、イエスさまを愛して、みことばに従う信仰生活を送りましょう。

C、復活を信じましょう！

イエスさまは、本当によみがえりました。もし、イエスさまが、十字架で死んでくださったただけなら、私たちは、依然として、罪の支配の下にいてと言われてしまうかもしれません。死は、罪の結果だからです。しかしイエスさまは、死に打ち勝ったのです。死を打ち破ったということは、罪の支配を完全に打ち破ったということです。ですから、本当にイエスさまだけが、私たちに、永遠の命を与えることができるのです。

教 師 ノ ー ト

週課 第一年 第四課 第五週

単元 イースター

テーマ キリストの昇天

タイトル イエス様はどこに

テキスト 使徒1:3-11

参照箇所 ヨハネ20:24-29

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

使徒1:11

AG 日曜学校教案参照箇所

小下 2 卷(4)13 課

□導入

素晴らしい生き方をした人は、立派なお墓があります。でもイエス様にはお墓がないのです。墓跡はあるのですが、お墓はありません。どうしてだと思いますか？

□ポイント1 復活されたイエス様は、弟子たちにお会いになりました(1:3)

イエス様の復活は、伝説や作り話しではありません。40日間という具体的な期間、最初はイエス様の復活を信じられなかった弟子たちに現れ、甦ったこと、生きていることを数々の証拠によってお示しになりましたのです。

☞数々の証拠として、信じられなかったトマスに手のひらを見せて十字架の釘痕(くぎあと)を示したこと(ヨハネ 20:24-29)、イエス様の言うとおりに舟の右側に網をおろすと 153 匹のおびただしい魚が獲れたこと(ヨハネ 21:1-14)、500 人以上の人々に現れたこと(I コリント 15:6)などを紹介しても良いでしょう。

☞聖書に記されているイエス様の奇跡である「死人の生き返り」と、イエス様自身の「死からの甦り・復活」は、違うということを前提にお話ししましょう。「死人の生き返り」を体験した人も、癒された後やがて死にました。しかしイエス様は神の子として、死人の初穂として、甦られ、今も生きておられます。

☞イエス様が今も生きておられることは、各人に一番分かりやすい方法でイエス様はお示しになります。どんなことを通して、イエス様が今も生きておられることを体験したかを教師自身の証しとして分かち合っても良いでしょう。例えば、祈りが応えられたこと、事故から守られたこと、癒されたことなどなど。

□ポイント2 イエス様は弟子たちに約束されました(1:4-8)

イエス様はやがて天に昇られるのですが、私たちを置いて一人ぼっちにしたわけではありません。もう一人の助け主である聖霊によって満たされて(聖霊のバプテスマ)、聖霊の力を受けることを約束しました。聖霊の力を受けると、イエス様が甦ったこと、今も生きておられることを人々に証する証人になることができます。

イエス様は聖霊の力を受けるとい約束をされました。聖霊なる神様は、私たちの目には見えませんが、イエス様を信じる人の心に住んで下さり、力を与えてくれます。だから私たちは「イエス様がどこかに行ってしまった」とか「目に見えないから生きていないんじゃないか」と思う必要はありません。聖霊の力を受けられることができます。人間の約束は、守られないこともあります。イエス様の約束、父なる神様の約束は、必ず成就(実現)します。

☞「力」は、「デュナミス」という言葉が使われ、ダイナマイトの語源となった言葉です。しかし破壊的な力というよりも、長血の女性がイエス様の衣に触った時にイエス様から出た力(ルカ 8:46)、救いを得させる神の力(ロマ 1:16)も同じ言葉が用いられており、人を癒し、建て上げ、救う、大きな大きな力です。

□ポイント3 イエス様は、天に昇っていかれました(1:9-11)

イエス様は弟子たちに約束をされた後、みんなの見ていた前で天に上げられ、雲に包まれて見えなくなっていました。しばらく天を見上げていた弟子たちのそばに、白い衣を着た人が2人立っていました。そして「もう一度、今見たような様子で、イエス様はおいでになります」と言いました。

天とは、空の上のどこか、宇宙のどこかということではなく、父なる神様のおられるところのことです。イエス様は何となくどこかに行かれたのではなく、父なる神様のそばにおられるのです。そしてイエス様は天に昇って行かれてそのままずっと天におられるのではなく、もう一度天からおいでになります。

☞イエス様が天で何をされているのかという疑問があるようであれば、神様の右に座して私たちのために祈りとりなして下さっている(ロマ8:34)と語るのも良いでしょう。

☞新井満氏が歌詞を翻訳し、作曲した「千の風になって」という歌があります。もしかすると学校などで歌われているかもしれません。日本人の心の琴線に触れるものかもしれませんが、死ねば、大自然に帰り、そこでまた生まれ変わるというのは、輪廻転生的な思想で、聖書の復活の教理からはずれたものです。アニメなどの影響で「生まれ変わり」があると思っている小学生も多いようです。「生まれ変わり」や「前世」と「復活」は違うということ、またキリスト教は「靈魂不滅説」ではなく、肉体をもって栄光の体に復活することも教師は理解しておく必要があります。

□結論 イエス様は、確かに甦られ、天に昇られ、もう一度お出でになります。

イエス様の復活は作り話しではなく真実です。そして私たちをほったらかしにして、どこか遠いところに行ってしまうのではなく、天に昇られました。地上にいる私たちには聖霊の力が与えられ、やがてもう一度イエス様は来られるのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. イエス様が今も生きておられることを信じていますか？
イエス様は死んでいなくなった神様ではなく、今も生きておられることを感謝しましょう。
2. イエス様が今も生きておられることを信じられない人がいたら、一緒にお祈りをしましょう。
イエス様は弟子たちに一番分かりやすい方法で、イエス様が甦ったこと、生きておられることを示されました。信じられない人は、「イエス様が生きておられることを、僕にも分かるように体験させて下さい」と一緒に祈ろう。約束の聖霊が働いて、きっとイエス様を体験することができます。
3. 聖霊の力を頂こう。
イエス様が生きておられることを体験した人は、そのことを友だちにお話ししよう！ そのための勇気や力を聖霊なる神様が与えてくれます。

教師ノート

週課	第一年 第四課 第六週
単元	イースター
テーマ	新天新地
タイトル	希望の天国～新しい天と地
テキスト	黙示録21:1-5、8、27
参照箇所	Ⅱペテロ3:13、黙示録21章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Ⅱペテロ3:13
AG 日曜学校教案参照箇所	小下 2 巻(4)12 課、中学 1 巻(2)13 課、中学 3 巻(2)13 課、中学 3 巻(3)12 課
□導入	<p>イエス様を信じている私たちは、死んだらどこへ行くのでしょうか？ヨハネはパトモス島で、聖霊によって新しい天と地である天国の幻を見て、それを書き記しました(ヨハネの黙示録)。イエス様を信じている人が行く天国って、いったいどんなところなのでしょう？</p>
□ポイント1 天国は神様が共におられるところです(21:3)	<p>ヨハネは新しい天と地である天国の幻を見ました。今、地上にいる私たちは神様を見ることはできませんが、天国では私たちは王なる神様の民となり、神様が私たちと一緒に住まわれるのです！</p>
☞この単元では、「天国」=「新天新地」として説明しておくことが子どもたちに分かりやすいでしょう。では今、神様がおられる「天(国)」と「新天新地」の違いについて、子どもたちには以下のように説明できるでしょう。	<ul style="list-style-type: none">・「今、神様が住まわれているところ」・「新天新地」…古い天と地が消え去り(黙 20:11)、神様を信じる人全員が神様と共に住むところ
☞エリクソンは「天」という言葉の意味を大きく3つ挙げています(『キリスト教神学第4巻』)。	<ul style="list-style-type: none">・天… 1. 宇宙論的な意味(創世記1:1、マタイ5:18)2. 神の同義語(ルカ 15:18、ヨハネ 3:27)3. 神の住まい(マタイ 6:9、…)
□ポイント2 天国では、全ての痛みや悪が取り去られます(21:4-5)	<p>神様は私たちの痛みや悲しみを知っておられ、慰め主として私たちの目の涙をまったくぬぐい取って下さいます。天国ではもはや死もなく、悲しみも、叫びも、苦しみもありません！なぜなら古いものは過ぎ去り、全てが新しくなるからです。</p>
☞つらい経験などをしている子どもたちがいたなら、神様は全部知っておられること、慰めてくれることを語りましょう。天国では完全な慰めがありますが、地上では死があっても癒しや復活の希望があること、悲しみがあっても慰めがあること、叫ぶことがあっても賛美に変えて下さることなど、天国の前味が与えられていることも語ると良いでしょう。	
☞天の本質は、臨在と悪が取り去られることの他に、栄光が現わされることもあります。また天国における生活(活動)には、安息、礼拝、奉仕があります。(ミラード・J・エリクソン『キリスト教神学第4巻』)	

□ポイント3 天国は、小羊のいのちの書に名前が記されている人が入れます (21:8、27)

小羊とはイエス様のことで、いのちの書に名前が記されている人とは、イエス様を信じている人のことです。イエス様を信じていのちの書に名前が記されている人は、天国に入ることができます。イエス様の救い(十字架と復活)を信じないで、罪や汚れを持ち続けている人は、天国に入れません。

☞ 例話: どんなことをした人が天国に入れなくて、火と硫黄との燃える池の中に入れられると思いますか? ……、そうだね、殺人を犯した人とかは確かに悪いよね。でも 21:8 を読むと、「おくびょう者」が罪のリストの一番にきています。「おくびょう」ってどうして一番にあげられているんだろう? ……どうしておくびょうになってしまうんだろう? ……そう、神様を信じきれないからおくびょうになったりこわくなったりするんですね。神様を信じる時、おくびょうは小さくなり、神様を信じきれない時、おくびょうは大きくなります。実は神様を信じない、信じきれないってことが大きな罪なんですよ。

またこの罪のリストは、こういうことを 1 回でもした人は天国にいけないってことではありません。イエス様を信じないで、ここに書いているような罪を犯し続けるとき、天国には入れないんです。でもイエス様を信じる時、小羊のいのちの書に名前が記されて、天国に行けるんです!

□結論 イエス様を救い主と信じている人は、罪がゆるされて素晴らしい天国に入ることができます。

☞ 天国への希望を語り、イエス様のことを改めて信じる決心の時を持つても良いでしょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. イエス様を信じる決心

私たちは死んで終わりではありません。イエス様を信じていのちの書に名前が記されている人は、天国行きの切符を持っているのです。神様が共にいて死も痛み悲しみもない天国に行くのと、第2の死と言われる火と硫黄の燃える池の中に行くのと、どちらを選びますか? イエス様を信じ続けていきましょう!(注意: 地獄を強調して恐怖心を起こさせるのではなく、天国の素晴らしさを強調するように語りましょう。)

2. 悔い改めの決心

イエス様のことを救い主と信じているのに、罪のリスト(子どもたちのために噛み砕きながら)に入っているようなことを、行い続けている人はいませんか? イエス様の十字架は全ての罪から私たちをきよめ、復活のイエス様は罪に勝つ力を与えてくれます。このことは神様が喜んでいないなあと思うことがあれば、お祈りの中で神様に「ごめんなさい」と悔い改めましょう。

3. イエス様のことを伝える決心

せっかく地上で家族や友だちになったのに、一緒に天国に行けなかったらさびしいよね。家族や友だちがイエス様を信じるようにお祈りをしてイエス様のことを伝えていきましょう。